学習内容報告書 フォーマット

学校名	鳥羽市立答志中学校
授業者	河俣剛史、野村貴裕

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

藻場再生事業体験学習

1-2. 学年

第３学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

鳥羽磯部漁協答志支所青壮年部や鳥羽市水産研究所などが取り組んでいる藻場再生事業に参加する。海の環境や生態系を支える藻場の役割について学ぶとともに、答志島周辺の海にアラメを放流する体験に取り組む。また、プロジェクトに関わる人々の思いや考えを聞き、その仕事ぶりを間近に見ることで、ふるさとの環境や産業に対する自身の今後の取り組みや姿勢について考える機会をつくる。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本校は鳥羽市の離島・答志島にある。生徒の保護者には主に水産業や観光業などに従事する方が多く、生徒は普段から身近な海と深く関わって生活を送っている。卒業後の進路でも、漁師等海に関わる職業に就く生徒が多い。これらの状況をふまえ、本校では地域の産業や地域で働く人々と触れあうことで、地域の特性や良さを知り、自らの将来や生き方について考える糧になるのではないかと考え、学年ごとにテーマを決めて、１年間を通して、総合的な学習の時間の中に海洋教育を位置づけ、取り組みを続けている。

３年生では、藻場再生事業体験学習に取り組む。近年、伊勢志摩地域の漁場では磯焼けが進行している。答志島周辺でも昔に比べて藻場が減少してしまい、魚介類が取れなくなりはじめた。その危機を救うため、鳥羽磯部漁協答志支所青壮年部や鳥羽市水産研究所等の機関が連携し、藻場再生活動に取り組んでいる。数年前から本校３年生がこのプロジェクトに参加し、藻場の役割や海の生態系について学ぶとともに、答志島近海にアラメを放流する体験学習を、鳥羽磯部漁協答志支所青壮年部や鳥羽市水産研究所などの協力を得て取り組んでいる。地元の海の環境や生態系のようすやそれらと自らの生活についてのつながりについて考えること、地元の人々のプロジェクトにかける思いや仕事に対する誇りを感じながら、改めてふるさとの海の良さを感じ、誇りに思う心情を養うことを目指し、本単元を設定した。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

地域の海に関わる様々な人との出会いや体験の中で、感謝や思いやりの温かい心を持ち、ふるさと・答志を知っていく中で、地域の海に関わる産業、伝統、文化を継承、発展させていく心情を養う。

1-7.　単元の展開（全１０時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	藻場の役割や活動の目的について、鳥羽市水産研究所・岩尾豊紀さんの話を聴く。 	＜教師の指導＞ 外部講師との打ち合わせ、当日セッティング、司会 ＜外部連携＞鳥羽市水産研究所 ＜使用教材＞ＰＣ、モニター、ふりかえりシート
2	アラメを固定するための止め具を岩につける作業を体験する。 	＜教師の指導＞ 作業場所への引率、体験の補助、ワークシートの作成、外部講師との打ち合わせ ＜主な評価＞ ・体験活動に積極的に取り組んでいるか。 ・ワークシートに体験した内容をまとめられているか。 ＜外部連携＞鳥羽磯部漁協答志支所青壮年部、鳥羽市水産研究所 ＜使用教材＞ワークシート
3	岩にアラメを固定し、海に放流する体験を行う。 	＜教師の指導＞ 作業場所への引率、体験の補助、ワークシートの作成、外部講師との打ち合わせ ＜主な評価＞ ・体験活動に積極的に取り組んでいるか。 ・ワークシートに体験した内容をまとめられているか。 ＜外部連携＞鳥羽磯部漁協答志支所青壮年部、鳥羽市水産研究所 ＜使用教材＞ワークシート

4 ～ 5	これまで学習・体験した内容に関して疑問に思ったことなどをまとめ、答志漁協青壮年部の方に質問する。	＜教師の指導＞ 外部講師との打ち合わせ、動画の作成 ＜外部連携＞鳥羽市水産研究所 ＜使用教材＞ＰＣ、モニター
5 ～ 8	これまで学習・体験した内容や調べた内容について、各班でポスターにまとめる。	＜教師の指導＞ ポスター作製の助言・指導 ＜主な評価＞ ・作成活動に積極的に取り組んでいるか。 ・ポスターにこれまで学習・体験した内容をまとめられているか。 ＜使用教材＞ＰＣ、モニター
9	ポスターをもとに、答志漁協青壮年部の方に学習内容を発表する。（その後、ポスターは定期船乗り場で掲示してもらう。） 	＜教師の指導＞ 外部講師との打ち合わせ、資料の作成、発表の準備 ＜外部連携＞鳥羽磯部漁協答志支所 ＜使用教材＞ＰＣ、モニター
10	修学旅行で串本海中公園へ行き、サンゴの保全活動や海の環境についての講義を聞き、施設を見学する。 	＜教師の指導＞ 外部講師との打ち合わせ、串本海中公園までの引率 ＜外部連携＞串本海中公園

2.　学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1.　単元における位置づけ

単元　１０　時間中の　9　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2.　本時の目標

・地場産業への認識を深めるとともに、勤労の尊さ、仲間との協力、自然との関わりの大切さを学び、郷土と海を愛する心を育てる。
・海の生態系や藻場の役割などに関わる学習や体験を通して、身のまわりの多様な自然に気づき、その実態から自分の行動を考える姿勢をもつ。
・これまでの学習内容をわかりやすくまとめ、発表する力を身につける。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
・発表について説明を聴く。	・これまでの活動に対するご協力への感謝、発表の意義などを話す。
・１班ずつ前に出て、これまでの学習内容を発表する。 	・作成したポスター（ロイロノート）のデータをモニターに写し、説明させる。PC の操作も生徒にさせる。 ・ＰＣの操作などを指導、支援する。
・鳥羽磯部漁協答志支所青壮年部の方に、講評をいただく。	
・ふりかえりを記入する。	・ワークシートを配布し、記入させる。

3.　今回の活動の自己評価

・９時間目の後に実施したアンケートから、「藻場再生事業の学習をしてどうでしたか？」という質問に対して、全員が「たいへんよかった」と答えていた。またその理由として、「普段できない貴重な体験をさせていただいたし、自分が藻場を守っていくために、していこうと思うことが深く考えることができた事業になったからです。」や、「普段何気なくわかめや魚を食べたりして生活をしているその影で、たくさんの人たちが頑張ってくれていると知ることができてよかったと感じることができたので、学べてよかったと思いました。」といった記述があった。体験を通して、地元の海の環境について深く考えることができたようである。８月に行われた地元のダイビング体験にも数名の生徒が参加し、中には自主的にライセンスを取得して藻場の観察をした生徒もいた。

・今年度は学習内容をまとめたポスターを作成し、青壮年部の方に発表を見ていただいたり、定期船乗り場に掲示してもらったりするなど、外部への発信をすることができた。また、修学旅行の行程にも海の環境保全について学ぶ内容を加え、海藻だけでない海の環境についても学びを深めることができた。

4.　今後の課題

・今年度はポスターを作り外部発信をしたが、今後は１年生の体験のように動画作成などを活用した発信をし、より広く宣伝していきたい。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

＜協力＞鳥羽磯部漁協答志支所青壮年部、鳥羽市水産研究所

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

　　フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

　　例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校１

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。